



アンドレアス・ヴェラー (テノール) Andreas Weller, *Tenor*

シュトゥットガルト生まれ。シュトゥットガルト国立音楽舞台芸術学院で声楽と指揮を学ぶ。1998～2000年ハンブルク音楽演劇アカデミーの大学院過程を修め、首席で卒業。1999年にはエリーゼ・マイヤー・コンクール、ハンブルクのミッシェル声楽コンクールで第1位を獲得した。さらに2000～02年リュウベックの音楽院で学び、2005年チューリヒの音楽大学を卒業。同校ではクリストフ・プレガルディエンのソリスト・クラスを専攻した。

以後彼は、国際的に引く手あまたの福音史家・オラトリオのソリストとなり、フリーダー・ベルニウス(シュトゥットガルト・ムジークボディウム)、ヘルムート・リリング(インターナショナル・バッハ・アカデミー)、マーカス・クリード(RIAS室内合唱団/コンセルト・ケルン)、ダニエル・ハーディング(ドイツ・カンマーフィル)、ハルトムート・ヘル(フーゴー・ヴォルフ・アカデミー)や、キングズ・シンガーズ等と共演。パリのIRCAMアゴラ・フェスティバル、トロントのサウンドストリーム・フェスティバル、ナポリの国際五月モーツァルト・フェスティバル等の名高い音楽祭にも出演している。CDも多数。



ヘンリク・ベーム (バリトン、バス) Henryk Böhm, *Baritone/Bass*

ドレスデン生まれ。9歳よりドレスデン聖十字架合唱団で歌い始め、ドレスデンのウェーバー音楽院で学んだ後、同音楽院のマスタークラスで、シュヴァルツコップ、シュライアー、ホルヴェーク、ファスベンダーに師事した。第12回シューマン国際コンクール、1996年ベルリンのドイツ声楽コンクールで優勝。

長年に亘りブラウンシュヴァイク州立歌劇場所属の歌手として活躍し、「魔笛」のパパゲーノ、「ドン・ジョヴァンニ」のタイトルロール、「メリー・ウィドウ」のダニロ、「ランメルモールのルチア」のエンリーコ、「椿姫」のジェルモン、「蝶々夫人」のシャープレス、「ラインの黄金」のドンナー、「エフゲニー・オネーギン」のタイトルロールなど、重要な役を演じている。また、ライブツィヒ歌劇場、ハノーファー歌劇場、ダルムシュタット歌劇場、エッセン歌劇場等にも出演。コンサートでは、ザルツブルク音楽祭、ドレスデン音楽祭、ライブツィヒ・バッハ音楽祭、ハレ・ヘンデル音楽祭、ラインガウ音楽祭等に出演し、CD録音や放送への出演も数多い。

歌曲にも力を注ぎ、有名なりサイトル・シリーズ「ダス・リート・イン・ドレスデン(ドレスデン歌曲の夕べ)」の創設者・監督でもある。



クラウス・メルテンス (バス) Klaus Mertens, *Bass*

バロックのオラトリオやコンサート・レパートリーを得意とする、当代きっての人気歌手の一人。彼は、これまでに多くの指揮者のもとで、バッハの声楽の名曲を繰り返し録音している。2003年には、コープマン指揮/アムステルダム・バロック管と、バッハのカンタータ全曲の録音を完成させ、フォノフォーラム誌(ドイツ)のT.ミヒャエル氏から「私はメルテンスほどバッハの解釈に秀でたバスを他に知らない」と絶賛された。

メルテンスの音楽活動のハイライトともいべきプロジェクトは、バッハの声楽作品の全曲演奏および録音である。このプロジェクトは完成に10年を要し、その間、ヨーロッパ、アメリカ、日本へのコンサート・ツアーも行われた。これによって彼は、バッハの声楽作品全曲をCD録音し、かつ、コンサートで歌った最初にして唯一の歌手となった。

ルネッサンスから現代に至る幅広い時代の歌曲にも同様に力を入れて取り組み、成功を収めている。コンサートのレパートリーは、モンテヴェルディから現代作曲家の作品までカバーし、その中には、彼のために作曲された曲も含まれている。

120枚を超えるCD録音を行い、世界各国のラジオやテレビにも出演。